

平成26年度 着手
令和 6 年度変更第1回

県営 りょう ない がわ う がん ほく ぶ 領内川右岸北部地区 土地改良事業計画書

(た ん 水 防 除 事 業)

愛 知 県

目

第 1 章	目 的	1
第 2 章	地 域 及 び 地 積	1
第 1 節	地 域	1
第 2 節	地 積	1
第 3 章	現 況	2
第 1 節	気象及び海象	2
1	一 般 気 象	2
2	特 殊 気 象	3
3	海 象	3
第 2 節	土 地 状 況	4
1	地形、土壌及び浸食の程度	4
2	土 地 分 類	5
3	土地利用の状況	5
4	土地所有の状況	6
第 3 節	水 利 状 況	7
1	用 水 状 況	7
2	排 水 状 況	7
3	河 川 状 況	11
第 4 節	道 路 概 況	11
1	道 路 概 況	11
2	主要道路一覧表	11
第 5 節	地域農業の概況	12
1	産業別就業人口	12
2	経営耕地広狭別農家数及び耕地の 分散状況並びに専兼業別農家数	12
3	動力農機具及び主要家畜頭数	13
4	主要作物作付状況	14
5	農業の動向	15
第 6 節	地域環境の概況	16

次

第 4 章	一 般 計 画	16
第 1 節	事業計画の要旨	16
1	要 旨	16
2	事業別面積	16
第 2 節	営農計画及び土地利用計画	17
1	営農計画の概要	17
2	土地利用区分	17
3	作付け方式	17
4	生 産 計 画	17
5	労働改善計画	17
6	級地別土地利用区分	17
7	土地配分計画	17
第 3 節	用 水 計 画	17
1	計画基準年	17
2	計画かんがい方式	17
3	計画用水系統	17
4	計画用水量	18
5	水 源 計 画	18
第 4 節	排 水 計 画	18
1	計画基準雨量	18
2	計画排水方式	18
3	計画排水系統	18
4	計画排水量	18
5	排 水 対 策	21
6	湛 水 検 討	22
第 5 節	道 路 計 画	22
1	道路及び索道	22
2	路線配置図	22

第6節	農用地造成計画	22
1	農用地造成計画	22
2	土 壌 改 良	22
第7節	洪水調整計画	22
1	計画基準雨量	22
2	計画洪水量及び調整量	22
3	貯 水 池	22
4	洪水調整検討	23
5	管 理 計 画	23
第8節	干 拓 計 画	23
第9節	農用地整備計画	23
1	区 画 整 理	23
2	暗 渠 排 水	23
3	客 土	23
4	農 地 保 全	23
第10節	老朽ため池改修計画	24
1	洪水吐改修計画	24
2	堤体補強計画	24
3	取水施設改修計画	24
第 5 章	主 要 工 事 計 画	24
第1節	用 水 施 設	24
1	貯 水 池	24
2	頭 首 工	24
3	揚 水 機	24
4	用 水 路	24
5	その他かんがい施設	24
第2節	排 水 施 設	24
1	排水水門	24
2	排 水 機	25

3	排 水 路	25
4	その他排水施設	25
第3節	道路及び索道	25
1	道 路	25
2	索 道	25
第4節	農 用 地 造 成	26
1	農用地造成	26
2	土 壌 改 良	26
第5節	洪水調整施設	26
1	貯 水 池	26
2	頭首工及び導水路	26
第6節	干 拓 施 設	26
1	堤 防	26
2	潮 止 め	26
3	付 属 施 設	26
4	埋 立	26
第7節	農用地整備施設	27
1	区 画 整 理	27
2	暗 渠 排 水	27
3	客 土	27
4	除 礫	27
5	農 地 保 全	27
第8節	老朽ため池改修施設	27
1	貯 水 池	27
2	堤体補強施設	27
第 6 章	附 帯 工 事 計 画	27
第 7 章	工事の着手及び完了の予定時期	28
第 8 章	環境との調和への配慮	28

第 9 章	換地計画の概要	28
第 1 節	換地計画を作成する上での基本的な考え方	28
第 2 節	換地区の設定	28
1	換地区の名称、所在、面積	28
2	換地区を設定する理由	28
第 3 節	換地計画樹立の基本方針	29
1	従前の土地の地積の基準	29
2	用途別予定地積	29
3	農用地集団化の方針	29
4	非農用地の換地方法	29
第 4 節	土地の評価及び清算の方法	29
1	評価の方法	29
2	清算の方法	29
第 5 節	換地計画樹立の年度計画	29
第 6 節	換地処分の時期に関する特則	29
第 10 章	事業費の総額及び内訳	29
第 11 章	効 用	30
第 12 章	関 連 す る 事 業	31
第 13 章	現況・計画平面図	31
1	現況平面図	32
2	計画平面図及び土地利用計画図	33
3	主要構造図	39

第 1 章 目 的

本地区は、愛知県の北西部に位置し稲沢市と愛西市に属する。西は木曽川総合用水海部幹線水路、東は日光川水系二級河川領内川に挟まれた低平地であり、流域面積は786haである。排水系統は大きく4つの排水ブロック(牧川第一、牧川第二、八開、開治)に分かれており、各ブロックの排水路および排水機場・排水樋門を経て領内川に排水している。

昭和40年代後半、地区内開発による流出量増と地盤沈下により排水状況が悪化し湛水被害が発生したため、「県営湛水防除事業 領内川地区」及び「県営湛水防除事業 領内川右岸地区」として事業が採択された。この事業により、昭和48年に牧川第二排水機場(φ1100 Q=2.33m³/s)、昭和51年に牧川第一排水機場(φ900 Q=1.50m³/s)、昭和53年に開治排水機場(φ1100 Q=2.20m³/s、φ700 Q=1.10m³/s)が設置された。また、昭和51年に県営ほ場整備事業により、(旧)宮田用水牧川井筋と領内川合流点に八開排水機場(φ400 Q=0.29m³/s×2台)が設置された。しかしその後の地盤沈下等による排水不良に対応するため、昭和56年に県単独事業(緊急農地等防災事業)により東川排水機場(φ900 Q=1.65m³/s、φ600 Q=0.65m³/s)が設置された。

昭和60年代前半、地下水汲み上げによる地盤沈下の進行と地区内開発による流出量の増大等により、再び湛水被害が顕著となったため、「県営湛水防除事業 領内川右岸3期地区」として、排水機場の増設と排水路の改修が行われた。この事業により、牧川第一第2排水機場(φ1200 Q=2.50m³/s、φ450 Q=0.40m³/s)、牧川第二第2排水機場(φ900 Q=1.50m³/s)、八開第2排水機場(φ800 Q=1.20m³/s)、開治第2排水機場(φ800 Q=1.20m³/s)が建設された。

(32) (40)

その後現在に至るまで、地区内開発により流出量は増加傾向にある。また、昭和48年～昭和56年に建設された排水機場は、設置から42年～50年が経過しており、老朽化に伴って排水能力が低下している。このため、湛水被害が度々発生している状況にある。本事業において排水機場を改修し湛水被害を防除して、農業経営の合理化、民生の安定を図ることを目的とする。

第 2 章 地域及び地積

第1節 地 域

(第1表)

事 業 名	地 域
たん水防除事業	稲沢市及び愛西市

第2節 地 積

(平成 25) (10)

(令和 5 年 11 月現在)

(第2表)

事 業 名	現況地目	田	畑	原 野	山 林	その他	計	備 考
	市町村名	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
農業用排水 (排水)	稲沢市	(64.2) 61.9	(57.9) 55.9	—	—	(50.6) 54.9	172.7	図測面積
	愛西市	(64.4) 62.0	(39.0) 38.3			(31.9) 35.0	135.3	
合計		(128.6) 123.9	(96.9) 94.2	—	—	(82.5) 89.9	308.0	

第 3 章 現 況

第 1 節 気象及び海象

1 一般気象

(第 3 表－ 1)

観 測 所 名	愛 西 観 測 所	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備考
観測期間	(平成24) 昭和54年～令和4年	5 月～ 9 月	10 月～ 4 月		
平 均 気 温 (℃)		(23. 4) 22. 2	(9. 3) 9. 0	(15. 2) 15. 6	
降 水 量	平 均 (mm)	(1, 013) 1, 169	(686) 561	(1, 699) 1, 730	
	基 準 年 (mm)	-	-	-	
降 水 日 数	平 均 (日)	(38) 65	(32) 47	(72) 112	
	基 準 年 (日)	-	-	-	
根 雪 期 間		- 月 - 日 ～ - 月 - 日 - 日間			
無 霜 期 間		3 月 29 日 ～ 11 月 23 日 230 日間			
最 多 風 向	(NNW) NW	最大風速 (m/s)	(16. 0) 18. 0 m/s ((SW)) (SE)	最多風向発生時期	(10) (3) 12 月 ～ 5 月
				最大風速発生年月日	(10) (22) H30 年 9 月 4 日

2 特殊気象

(第3表-2)

観測所名	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備考
愛西観測所																
観測期間	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
(平成24) 昭和54年～令和4年																
最大日雨量 (mm)	297.0	H12. 9. 11	(1/50) 1/285	(185.0) 233.0	(S63. 9. 20) H29. 10. 22	(1/6) 1/54	(173.0) 185.0	(H1. 9. 5) S63. 9. 20	(1/5) 1/14	(160.0) 173.0	(H16. 10. 20) H1. 9. 5	(1/4) 1/10	(155.0) 160.0	(H2. 11. 30) H28. 9. 20	(1/4) 1/7	
最大時間雨量 (mm)	(60.0) 75.0	(H12. 9. 10) S63. 9. 20	(-) 1/70	(51.5) 64.0	(H20. 8. 29) H25. 9. 4	(-) 1/26	(50.0) 60.0	(H1. 9. 5) H12. 9. 10	(-) 1/18	(37.0) 59.0	(H2. 9. 19) H12. 9. 11	(-) 1/17	(35.0) 58.0	(H19. 7. 14) H27. 8. 17	(-) 1/15	
最大4時間雨量 (mm)	(148.0) 167.0	(H12. 9. 11) S63. 9. 20	(-) 1/95	(123.0) 148.0	(H1. 9. 5) H12. 9. 11	(-) 1/44	(104.5) 123.0	(H20. 8. 29) H1. 9. 5	(-) 1/15	(103.0) 113.0	(H2. 2. 19) H27. 8. 17	(-) 1/10	(96.0) 111.0	(H16. 10. 20) R4. 7. 9	(-) 1/9	
最大連続雨量 (mm)	(438.0) 439.0	H. 12. 9. 9 ～9. 12	(1/55) 1/94	(274.0) 370.5	(S55. 5. 31 ～6. 2) H29. 10. 13 ～10. 25	(1/10) 1/10	(260.0) 346.0	(H2. 9. 17 ～9. 19) H19. 7. 10 ～7. 17	(1/7) 1/19	(213.0) 328.0	(H19. 7. 12 ～7. 14) H2. 9. 13 ～9. 20	(1/4) 1/14	(212.8) 312.0	(H13. 8. 21 ～8. 22) S57. 7. 24 ～8. 3	(1/4) 1/11	
最大連続干天日数 (日)	(47) 31	(H9. 9. 27 ～11. 12) H11. 12. 6 ～H12. 1. 5	(-) 1/77	(46) 26	(H11. 11. 25 ～H12. 1. 9) H7. 11. 28 ～H7. 12. 23	(-) 1/17	(44) 25	(S61. 1. 5 ～2. 17) S62. 12. 10 ～S63. 1. 3	(-) 1/13	(37) 24	(S62. 11. 28 ～1. 3) R2. 11. 21 ～12. 14	(-) 1/10	(37) 24	(H19. 1. 8 ～2. 13) H1. 8. 3 ～8. 26	(-) 1/10	

3 海象

(第3表-3)

観測所名	名古屋港	既往最高潮位 (m)	さく望平均 満潮位 (m)	上下弦平均 満潮位 (m)	平均潮位 (m)	上下弦平均 干潮位 (m)	さく望平均 干潮位 (m)	既往最低潮位 (m)	備考
観測期間	(平成24) 平成元年～令和4年								
実測値		(+) 2.20 (平成6年)	(+) 1.18	(+) 0.36	(+) 0.06	(-) 0.02	(-) 1.26	(-) 1.49 (平成5年)	

第2節 土地状況

1 地形、土壌及び浸食の程度

(第4表-1-1)

事業名	地目 傾斜区分	田						畑・その他							受益地標高(m)		備考
		1/1000以下	1/1000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5以上	計	3°以下	3°～8°	8°～10°	10°～15°	15°～20°	20°以上	計	最高	最低	
											小計						
たん水防除	面積(ha)	(128.6) 123.9	-	-	-	-	(128.6) 123.9	(96.9) 94.2	-	-	-	-	-	(96.9) 94.2	2.36	0.00	
	比率(%)	100.0	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-	100.0			
合計	面積(ha)	(128.6) 123.9	-	-	-	-	(128.6) 123.9	(96.9) 94.2	-	-	-	-	-	(96.9) 94.2	2.36	0.00	
	比率(%)	100.0	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-	100.0			

(第4表-1-2)

土壌統(区)名	項目	土壌統(区)区分一覧表									面積(ha)			備考
		土壌断面							堆積様式	母材	事業名			
		色	腐植	礫層	酸化沈殿物	土性					泥炭層 黒泥層 及び グライ層	たん水防除	計	
						表土	下層土							
						一層	二層	三層						
清武統	Y(灰色)	あり	なし	糸根、膜管状 なし～含む	壤質	砂壤質	壤質	作土直下から グライ層	水積	非固結 水成岩	308.0	308.0		
計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	308.0	308.0		

2 土地分類 該当なし

3 土地利用の状況

(平成 25) (10)

(令和 5 年 11 月現在) (第4表-3)

事業名	土地利用別 市町村名	耕地						山林		採草放牧地	その他	計	備考
		水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他の樹園地 (ha)	用材林 (ha)	薪炭林 (ha)				
たん水防除	稲沢市	(64.2) 61.9	(57.9) 55.9	-	-	-	-	-	-	-	(50.6) 54.9	172.7	
	愛西市	(64.4) 62.0	(39.0) 38.3	-	-	-	-	-	-	-	(31.9) 35.0	135.3	
	合計	(128.6) 123.9	(96.9) 94.2	-	-	-	-	-	-	-	(82.5) 89.9	308.0	

4 土地所有の状況

(平成 25) (10)

(令和 5 年 11 月現在)

(第 4 表 - 4)

事業名	所有別 区分	個人有地等	国 有 地	県 有 地	市 有 地	計	備 考
たん水防除	面 積 (ha)	225.5		82.5		308.0	
	受益者数 (人)	(697) 664	-	-	-	(697) 664	
	筆数 (筆)	(1,170) 2,701	-	-	-	(1,170) 2,701	
	権 利 関 係	-	-	-	-		
	備 考 (関係戸数)	(697)				(697)	
合 計	面 積 (ha)	225.5		82.5		308.0	
	受益者数 (人)	(697) 664	-	-	-	(697) 664	
	筆数 (筆)	(1,170) 2,701	-	-	-	(1,170) 2,701	
	権 利 関 係	-	-	-	-		
	備 考 (関係戸数)	(697)				(697)	

第3節 水利状況

1 用水状況

本地区は、木曽川を用水源として、宮田用水奥村幹線水路（牧川分水路）および木曽川総合用水海部幹線水路から取水している。

- | | |
|---------------------|------|
| (1) 用水系統 | 該当なし |
| (2) 用水施設 | 該当なし |
| (3) 用水に関する被害状況 | 該当なし |
| (4) ため池決壊の場合の想定被害状況 | 該当なし |

2 排水状況

本地区は大きく4つの排水ブロック（牧川第一、牧川第二、八開、開治）に分かれており、各ブロックの排水路および排水機場・排水樋門を経て領内川に排水している。

昭和40年代後半から50年代にかけて、地区内開発による流出量増と地盤沈下により排水状況が悪化したため、「県営湛水防除事業 領内川地区」及び「県営湛水防除事業 領内川右岸地区」を始めとする県営事業で排水機場が整備された。（昭和48年～昭和56年）

昭和60年代前半、地下水汲み上げによる地盤沈下の進行と更なる地区内開発による流出量の増大等により、再び湛水被害が顕著となったため、「県営湛水防除事業 領内川右岸3期地区」として、各排水ブロックの排水機場の増設と排水路改修が行われた。（平成5年～平成7年）

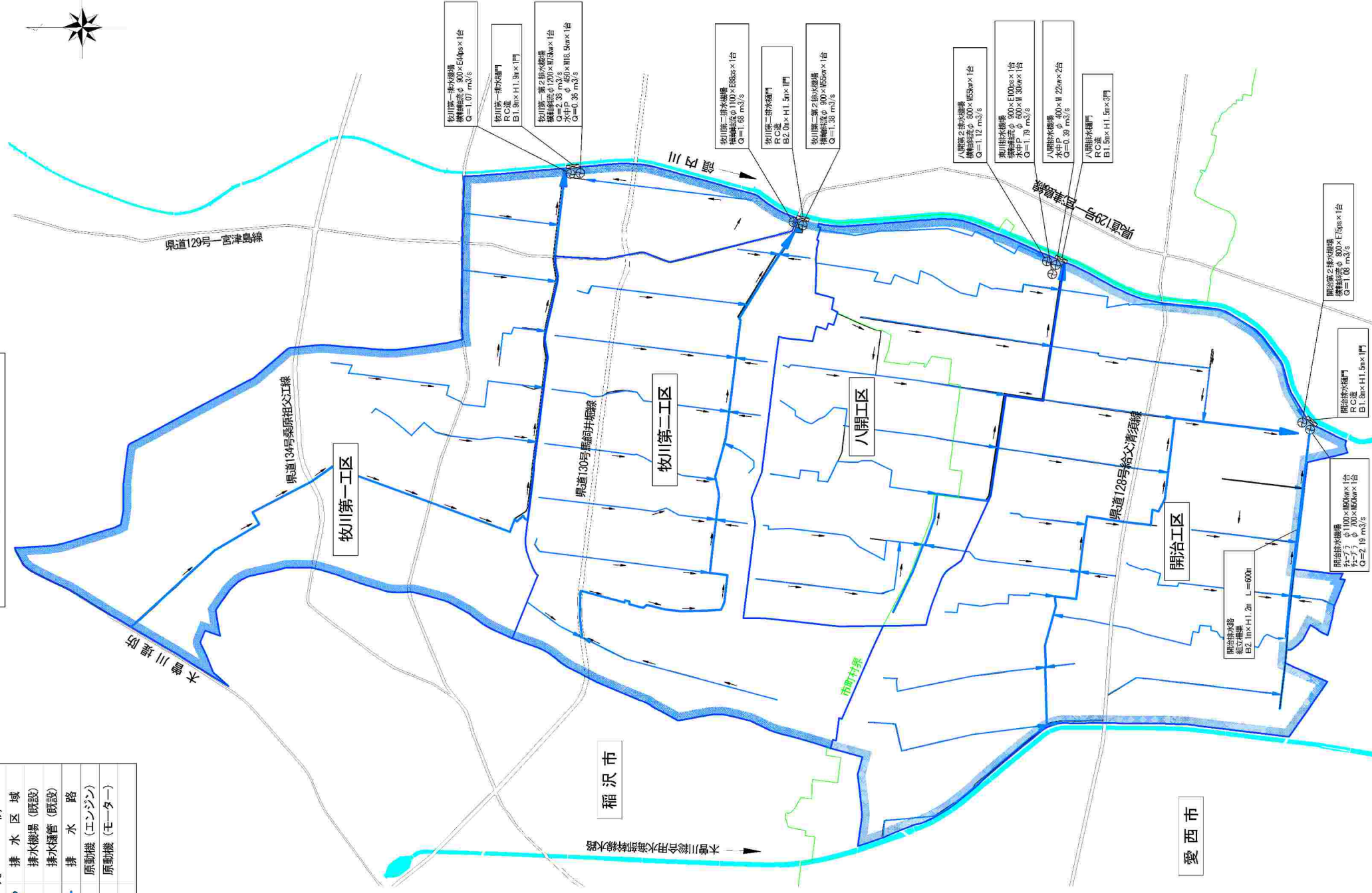
(32) (40)

その後現在に至るまで、地区内開発により流出量は増加傾向にある。また、昭和48年～昭和56年に建設された排水機場は、設置から42年～50年が経過しており、老朽化に伴って排水能力が低下している。このため、湛水被害が度々発生している状況にある。

- | | |
|----------|---------------|
| (1) 排水系統 | 別紙 現況排水系統図 参照 |
|----------|---------------|

現況排水系統図

凡	例
	排水区域
	排水機場 (既設)
	排水涵管 (既設)
	排水路
E	原動機 (エンジン)
M	原動機 (モーター)



(2) 排水施設

(ア) 排水方法一覧表

(第5表-4)

事業名	項 目		排 水 面 積						計	排水慣行 (m³/s)	現況排水能力 (m³/s)	備 考	
			ha 以上		～ ha		ha 未満						
	施 設 名		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha			
たん水防除	自然	排 水 路	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(m3/s)	
		水 門	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	機械	排 水 機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	牧川第一排水機場 3.8	
		水門及び排水機	4	786.0	-	-	-	-	4	786.0	-	13.44	牧川第二排水機場 3.0
		排水路及び排水機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	八開排水機場 3.3	
												開治排水機場 3.2	
	計		4	786.0	-	-	-	-	4	786.0	-	13.44	
合 計		4	786.0	-	-	-	-	4	786.0	-	13.44		

(イ) 改修を要する施設の一覧表

(第5表-5)

事業名	項 目		施 設 名 又は 箇 所 数	受益面積 (ha)	構 造	規 模	新 設 年 又は 更 新 年	改修を必要 とする理由	備 考
	施 設 名								
た ん 水 防 除	自然	排 水 路	開治(下丸島) 排水 水路 (600) L=650m	15.9	プ レキャスト柵渠	B2. 1m×H1. 2m	平成6年	流下能力不足 老朽化	
		水 門	-	-	-	-	-	-	
	機械	排水機	牧川第一排水機場	82.9	横軸軸流	φ 900×1台 Q=1.07m3/s	昭和51年	耐用年数経過による能力低下	
			牧川第二排水機場	72.1	横軸軸流	φ 1100×1台 Q=1.68m3/s	昭和48年	〃	
			八開排水機場 東川排水機場	68.5	水中 水中 横軸軸流 水中	φ 400×1台 Q=0.19m3/s φ 400×1台 Q=0.20m3/s φ 900×1台 Q=1.22m3/s φ 600×1台 Q=0.57m3/s	昭和51年 昭和51年 昭和56年 昭和56年	〃	
			開治排水機場	84.5	チューブラ	φ 1100×1台 Q=1.47m3/s φ 700×1台 Q=0.72m3/s	昭和53年	〃	
		水 門	牧川第一排水樋門	82.9	RC構造	B1. 9m×H1. 9m	昭和51年	老朽化及び基礎形式が現行河川基準 に合致しないため	
			牧川第二排水樋門	72.1	〃	B2. 0m×H1. 5m	昭和48年	〃	
			八開排水樋門	68.5	〃	B1. 5m×H1. 5m	昭和51年	〃	
			開治排水樋門	84.5	〃	B1. 8m×H1. 5m	昭和53年	〃	
	計			308.0	-	-	-	-	
	合 計			308.0	-	-	-	-	

(3) 排水に関する被害状況

(第5表-6)

事業名	項 目 施設名	排水面積 (ha)	降水量 (mm)		湛 水 状 況				乾 湿 状 況 (ha)						平均減産量(t)		備 考
					湛水深 (cm)	湛水時間 (hr)	湛水面積 (ha)	湛水量 (千m ³)	田		畑		そ の 他		作物名	減産量 (t)	
									乾	湿	乾	湿	乾	湿			
た ん 水 防 除	牧川第一 排水機場	212.0	平均	-	-	-	-	22.5	-	31.0	-	29.4	-	水稻 大豆 キャベツ ほうれん草他	593	1/20確率	
			基準年	341	63	33	82.9										249
	牧川第二 排水機場	181.0	平均	-	-	-	-	33.9	-	21.2	-	17.0	-	水稻 大豆 キャベツ ほうれん草他	422	〃	
			基準年	341	83	30	72.1										145
	八 開 排水機場	150.0	平均	-	-	-	-	30.3	-	21.9	-	16.3	-	水稻 大豆 だいこん いちご 他	803	〃	
			基準年	341	53	26	68.5										119
	開 治 排水機場	243.0	平均	-	-	-	-	41.9	-	22.8	-	19.8	-	水稻 大豆 だいこん いちご 他	995	〃	
			基準年	341	105	45	84.5										261
合計			平均					128.6	-	96.9	-	82.5	-		2,813		
			基準年	341	-	-	308.0										774

3 河川状況

(1) 河川状況

(第5表-7)

河川名	項目	流 路 状 況	勾 配	断 面	計画洪水量 (m^3/s)	既往最大洪水量 (m^3/s)	備 考
日光川水系 二級河川 領内川		-	1/14400	確率1/5にて 改修中	55	-	

(2) 洪水に関する被害状況

(第5表-8)

区分	項目	農 用 地 (百万円)	農 用 施 設 (百万円)	作 物 (百万円)	公 共 施 設 (百万円)	備 考
過去の最大被害額		1 4 7	1 5 1	-	-	東海豪雨
平均被害額		-	-	-	-	

第4節 道路概況

1 道路概況

一般県道130号（馬飼井堀線）、一般県道128号（給父清須線）が流域の中央部で東西を横貫している。これらの県道は名古屋環状3号線である国道155号に接続しており、木曽川右岸の岐阜県から愛知県に至る重要な幹線である。本地区はこのような交通の利便性の良い状況にあり、地区及びその周辺の交通の重要な拠点となっている。

2 主要道路一覧表

(第6表)

NO.	路線名	管理区分	延長 (m)	幅員 (m)		構造	改修の要否	備考
				全幅	有効			
	馬飼井堀線	県道	—	12	8	片側1車線	否	
	給父清須線	県道	—	12	8	片側1車線	否	

第5節 地域農業の概況

1 産業別就業人口

(第7表-1)

項目 市町村名	総数 (人)	農業 (人)	林業 (人)	漁業 (人)	鉱業 (人)	建設業 (人)	製造業 (人)	電気ガス 熱供給 水道業 (人)	運輸 通信業 (人)	卸売 小売業 飲食店 (人)	金融 保険業 (人)	教育・学 習支援業 (人)	医療・福 祉 (人)	公務 (人)	その他 (人)	備考
稲沢市	(69,498) 73,492	(3,333) 2,790	(-) 3	(4) 2	-	(4,426) 4,784	(15,929) 16,872	(325) 322	(5,859) 7,147	(11,103) 11,451	(1,768) 1,587	(2,612) 3,113	(5,433) 7,931	(1,743) 1,844	(16,963) 15,606	
愛西市	(32,377) 32,539	(2,857) 2,324	(-) 1	(7) 7	(2) 1	(2,611) 2,441	(6,967) 6,864	(160) 151	(2,605) 2,966	(5,521) 4,946	(650) 555	(1,248) 1,400	(2,830) 3,717	(1,024) 939	(5,895) 6,227	
計	(101,875) 106,031	(6,190) 5,114	(4) 4	(11) 9	(2) 1	(7,037) 7,225	(22,896) 23,736	(485) 473	(8,464) 10,113	(16,624) 16,397	(2,418) 2,142	(3,860) 4,513	(8,263) 11,648	(2,767) 2,783	(22,858) 21,833	
比率 (%)	(100.0) 100.0	(6.1) 4.8	(0.0) -	(0.0) 0.0	(0.0) -	(6.9) 6.8	(22.5) 22.4	(0.5) 0.5	(8.3) 9.5	(16.3) 15.5	(2.4) 2.0	(3.8) 4.3	(8.1) 11.0	(2.7) 2.6	(22.4) 20.6	

((出典：第59次東海農林水産統計年報))

(出典：令和2年度国政調査)

2 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況並びに専業別農家数

(第7表-2)

市町村名	農 業 經 營 體 數 (經營體)	經營耕地面積規模別經營體數 (經營體)											1 經營體当たり平均農用地面積 (ha)						専業別 農家數(戸)			備 考
		0.3 ha 未 滿	0.3 ～ 0.5	0.5 ～ 1.0	1.0 ～ 1.5	1.5 ～ 2.0	2.0 ～ 3.0	3.0 ～ 5.0	5.0 ～ 10.0	10.0 ～ 20.0	20.0 ha 以 上	自 給 的 農 家	田	畑	樹 園 地	小 計	草 地	計	専 業	兼 業		
																				第一 種	第二 種	
稲沢市	(2,105) 1,098	(150) 121	(595) 315	(940) 416	(250) 123	(76) 50	(45) 28	(18) 16	(11) 8	(9) 7	(11) 14	0	(0.8) 1.7	(0.4) 0.6	(0.6) 1.3	(1.8) 3.6	(0.0) 0.3	(1.8) 3.9	(490) 249	(425) 124	(1,059) 677	
愛西市	(1,868) 956	(61) 39	(300) 172	(700) 355	(479) 208	(197) 93	(88) 50	(20) 14	(9) 6	(6) 5	(8) 14	0	(1.1) 1.8	(0.2) 0.4	(0.1) 0.2	(3.8) 2.4	(0.0) 0.2	(3.8) 2.6	(487) 298	(464) 99	(847) 538	
計	(3,973) 2,054	(211) 160	(895) 487	(1,640) 771	(729) 331	(273) 143	(133) 78	(38) 30	(20) 14	(15) 12	(19) 28	0	-	-	-	-	-	-	(977) 547	(889) 223	(1,906) 1,215	
比率(%)	(100.0) 100.0	(5.3) 7.8	(22.5) 23.7	(41.3) 37.5	(18.4) 16.1	(6.9) 7.0	(3.4) 3.8	(1.0) 1.5	(0.5) 0.7	(0.4) 0.6	(0.5) 1.4	0.0	-	-	-	-	-	-	(25.9) 27.6	(23.6) 11.2	(50.5) 61.2	

((出典：第59次東海農林水産統計年報、2010年世界農林業センサス))

(出典：第69次東海農林水産統計年報、2020年農林業センサス)

3 動力農機具及び主要家畜頭数

(第7表-3)

市町村名	項 目	動 力 農 機 具								主 要 家 畜						備 考
		トラクター		動力防除機		動力田植機		自脱型コンバイン		乳 用 牛		肉 用 牛		豚		
		数量 (台)	経営体数 (経営体)	数量 (台)	経営体数 (経営体)	数量 (台)	経営体数 (経営体)	数量 (台)	経営体数 (経営体)	数量 (頭)	戸数 (戸)	数量 (頭)	戸数 (戸)	数量 (頭)	戸数 (戸)	
稲沢市	(1, 013) 1, 287	(984) 998	—	—	(1, 766) 650	(1, 438) 625	(637) 424	(601) 394							「-」は、事実のないもの。 「x」は秘密保護上統計数値を公表しないもの。	
愛西市	(899) 1, 140	(873) 884	—	—	(1, 567) 575	(1, 276) 554	(565) 376	(534) 349	(-) x	(-) 4	(-) x	(-) 4	(-) 961	(-) 3		
計	(1, 912) 2, 427	(1, 857) 1, 882	—	—	(3, 333) 1, 225	(2, 714) 1, 179	(1, 202) 800	(1, 135) 743	(-) x	(-) 4	(-) x	(-) 4	(-) 961	(-) 3		
100戸(経営体) 当り数 量 (台, 頭)	(103) 129		—		(123) 104		(106) 108		(-) x		(-) x		(-) 32, 033			
利用経営体数割合 (%)	(46. 7) 91. 6		—		(68. 3) 57. 4		(28. 6) 36. 2		(-) 0. 2		(-) 0. 2		(-) 0. 1			

((出典：2010年世界農林業センサス))

(出典：2020年農林業センサス)

4 主要作物作付状況

(第7表-4)

市 町 村 名			稲 沢 市		愛 西 市				計	平 均	作 付 率	備 考
総耕地面積 (ha)			(3,350) 3,170		(3,040) 2,960				(6,390) 6,130	(3,195) 3,065		
総本地面積 (ha)			(1,780) 1,670 (水田)		(2,350) 2,290 (水田)				(4,130) 3,960	(2,065) 1,980		
区 分 作物名			作付面積 (ha)	単位面積 当たり収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当たり収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当たり収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当たり収量 (kg/10a)	(%)	
田	表 作	水 稻	(1,460) 1,120	(484) 488	(1,660) 1,400	(501) 493			(3,120) 2,520	(493) 491	(48.8) 41.1	
	裏 作	麦 類	(-) 75	(-) 625	(41) 313	(140) 540			(41) 388	(140) 583	(0.6) 6.3	
	小 計		(1,460) 1,195		(1,701) 1,713				(3,161) 2,908		(49.4) 47.4	
畑	春夏作	野 菜	(91) -		(192) -				(283) -		(4.4) -	
	秋冬作	豆 類	(6) 2	(90) 106	(58) 53	(153) 143			(64) 55	(122) 125	(1.0) 0.9	
	小 計		(97) 2		(250) 53				(347) 55		(5.4) 0.9	
樹園地	果 樹		-	-					-	-	-	
	茶		-	-					-	-	-	
	小 計		-						-		-	
そ の 他			-	-					-	-	-	
計			(1,557) 1,197		(1,951) 1,766				(3,508) 2,963		(54.8) 48.3	
市町村別延べ作付率 (%)			(46.5) 37.8		(64.2) 59.7							

(2012)
(出典：2022年農林水産省作物統計市町村データ)

5 農業の動向

(第7表-5)

項目 区分	農 家			土 地			主 要 作 物			大 家 畜			動 力 農 機 具			地域指定等	備 考
		B	A		B	A	作 物 名	B	A	家 畜 名	B	A	農機具名	B	A		
(C年を 100とする 指数)	総農家数	(91) 92	80	耕 地	(96) 94	92	水 稻	(109) 98	99	乳 用 牛	—	—	乗用型 トラクター	※(57) 81	※(37) 66	農振地域 昭和45年4月 (※ C：平成12年は 歩行耕うん機 含む。)	(A：平成 22 年) ((2010年)) A：平成 27 年 (2015年) (B：平成 17 年) ((2005年)) B：平成 22 年 (2010年) (C：平成 12 年) ((2000年)) C：平成 17 年 (2005年)
	専業農家数	(96) 88	(99) 98	田	(96) 94	92	大 豆	(95) 102	(90) 78	肉 用 牛	—	—	動力 田植え機	(101) 78	(61) 56		
	第 一 種 兼業農家数	(83) 79	(54) 56	畑	(98) 95	(93) 91	だいこん	(77) 95	(78) 91	豚	—	—	自脱型 コンバイン	(67) 115	(63) 86		
	第 二 種 兼業農家数	(76) 84	(58) 60				キャベツ	(90) 95	(100) 99		—	—					
	農 業 従事者数	(100) 77	(24) 64														
変化の 理由	本地域は、名古屋港や工業地帯に近いことから、農家数が減少している			宅地や流通施設への転用により農地が減少している。			水稲は単収がやや減少している。 野菜の単収は全体的に減少もしくは横ばい傾向にある。						動力農機具の共有化により、減少している。				

(2010) (2005) (2000)

(出典：2020年、2015年、2010年世界農林業センサス)

第6節 地域環境の概況

稲沢市、愛西市地内における環境への配慮項目は次のとおりである。

① 特に配慮すべき生物環境

木曽川、長良川、日光川、善太川、領内川、三宅川、目比川、新堀川、大善川等多くの水辺を有する稲沢市・愛西市は、水辺の鳥類の好適な生息場所となっておりサギ類、カモ類、カワセミ、タマシギ、カワウ、カイツブリなどが見られる。水辺が多いことからモロコ類、ドジョウ類、モツゴ、メダカ、フナ、コイ、ナマズなどの淡水魚が生息している。

他にも、は虫類、両生類、昆虫類等多くの生物が確認されているが、絶滅危惧種に指定されている淡水魚類（カワバタモロコ、ヤリタナゴ、メダカ等）や鳥類（チュウヒ、ハヤブサ等）には特に配慮が必要である。

② 特に配慮すべき生物以外のもの（景観・文化財他）

稲沢市は、平成20年の市制50周年を記念して、現在あるすばらしい風景を再認識し、市民一人ひとりが、誇りと愛着を持てる景観地を広く市内外に知らせるとともに、後世に伝え、さらに次世代のまちづくりにつなげていくことを目的に、「稲沢市の景観地50選」を決定した。

流域内で主なものをあげると「(34)戒壇めぐりの善光寺」、「(36)王子マテリアのツツジ」などである。

愛西市内には、木曽川、長良川の他にも日光川、善田川、鵜戸川などの河川や水路が流れており水辺景観を形成している。また起伏の少ない地形と相まって水田や、はす田、畑が広がっている。

「歴史的な景観」としては、文化財と一体になった緑として、八幡社本殿（西條町）や水鶏塚（佐屋町）、大野城趾（大野町）などがあげられる。その多くは、緑を有する建物や碑である。市の天然記念物として東保八幡社のクロマツがある。

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

1 要 旨 湛水被害を防止するため、排水能力が不足している排水機場の改修を行う。

2 事業別面積

(第8表)

事業目的	事業名	た ん 水 防 除												計 (ha)	備 考
	土地 利用区分	水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 地 (ha)	果 樹 園 (ha)	そ の 他 (ha)	小 計 (ha)	水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 地 (ha)	果 樹 園 (ha)	そ の 他 (ha)	小 計 (ha)		
たん水被害防止		(128.6) 123.9	(96.9) 94.2	-	-	(82.5) 89.9	308.0							308.0	
計		(128.6) 123.9	(96.9) 94.2	-	-	(82.5) 89.9	308.0							308.0	

第2節 営農計画及び土地利用計画

1 営農計画の概要

本事業によって、湛水被害を未然に防止することより、農業生産の維持および農業経営の安定を図る。

2 土地利用区分

(第9表-1)

事業名	土地利用区分	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他 (ha)	小計 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
た防 ん水 除	現況	(128.6) 123.9	(96.9) 94.2	—	—	—	—	(225.5) 218.1	—	—	(82.5) 89.9	308.0	
	計画	(128.6) 123.9	(96.9) 94.2	—	—	—	—	(225.5) 218.1	—	—	(82.5) 89.9	308.0	
計	現況	(128.6) 123.9	(96.9) 94.2	—	—	—	—	(225.5) 218.1	—	—	(82.5) 89.9	308.0	
	計画	(128.6) 123.9	(96.9) 94.2	—	—	—	—	(225.5) 218.1	—	—	(82.5) 89.9	308.0	

3 作付方式 該当なし

4 生産計画 該当なし

5 労働改善計画 該当なし

6 級地別土地利用区分 該当なし

7 土地配分計画 該当なし

第3節 用水計画

1 計画基準年 該当なし

2 計画かんがい方式 該当なし

3 計画用水系統 該当なし

4 計画用水量

- (1) かんがい用水 該当なし
(2) 営農飲雑用水 該当なし

5 水源計画

- (1) 水利用計画 該当なし
(2) 用水対策 該当なし
(3) 水温水質 該当なし

第4節 排水計画

- 1 計画基準雨量 3日連続雨量 341 mm (1/20確率) 285 mm (1/10確率)

本事業地区流域は、日光川水系に包含されている。計画基準雨量は「土地改良事業計画特殊調査 日光川流域地区 排水解析業務」（平成20年 東海農政局 農村計画部）において算定されたものを採用した。

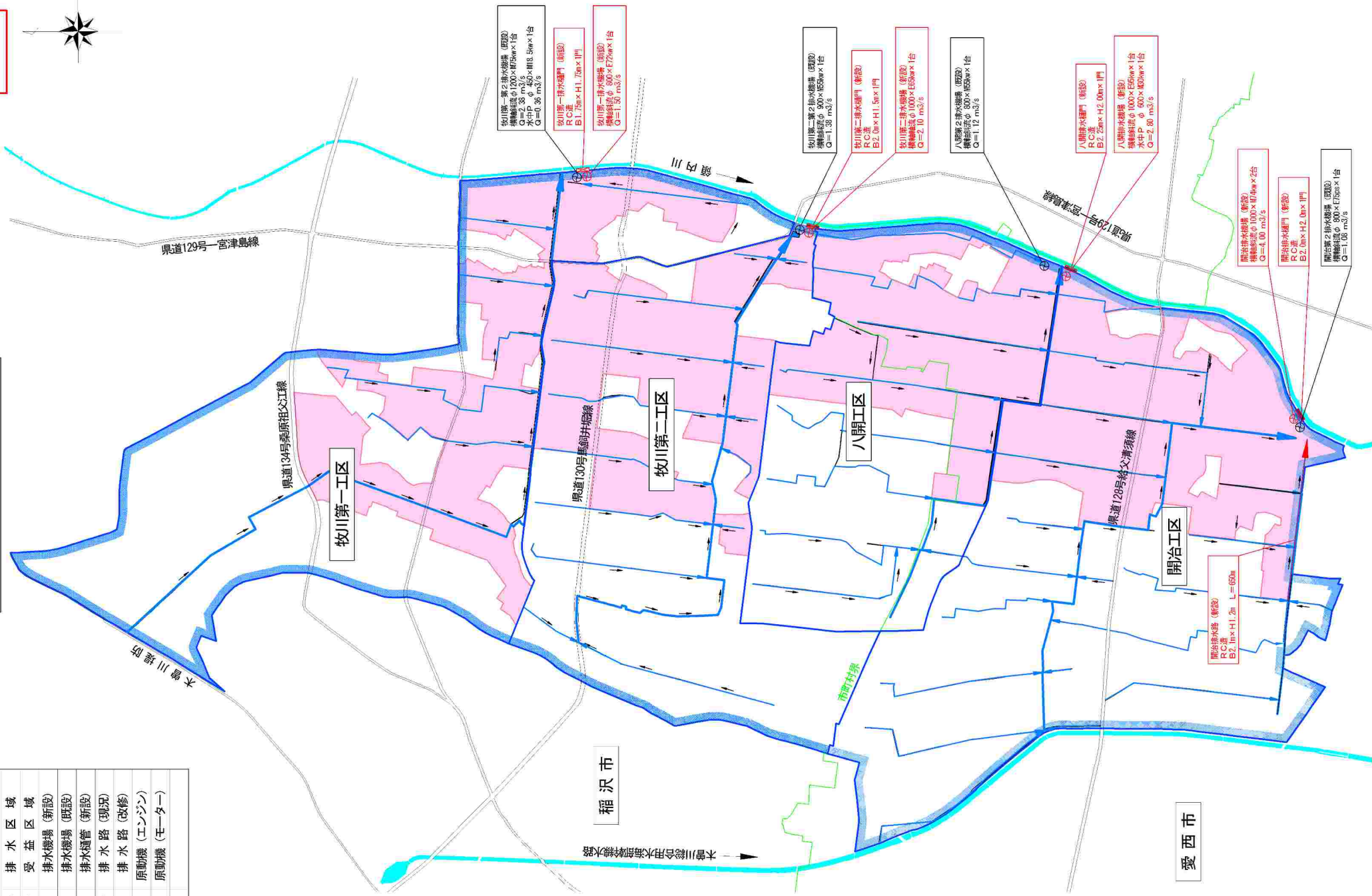
- 2 計画排水方式 排水方式…… 自然排水・機械排水併用

- 3 計画排水系統 別紙 計画排水系統図 参照

4 計画排水量

(第11表－1)

項 目	受 益 面 積 (ha)		流 域 面 積 (km ²)		基準雨量	降 雨 に よ る 直接単位流出量 (m ³ /s/km ²)		基 底 流 出 量 (m ³ /s/km ²)		全 排 水 量 (m ³ /s)			単 位 排 水 量 (m ³ /s/km ²)		備考
	事 業 名					山 地	平 地	山 地	平 地	山 地	平 地	山 地	平 地		
	たん水防除	計	自然排水	機械排水									山 地	平 地	
排水系統名					(mm/3日)	山 地	平 地	山 地	平 地				山 地	平 地	
日光川水系 二級河川領内川	308.0	308.0	—	7.86	341	—	7.048	—	0.064	—	—	20.53	—	2.612	
計	308.0	308.0	—	7.86	341	—	7.048	—	0.064	—	—	20.53	—	2.612	



5 排水対策

(1) 排水水門 (改築)

(第11表-2)

項 目 名 称	流域面積 (km ²)	受 益 面 積 (ha)			計画排水量		排 水 本 川			備 考
		事 業 名			排 水 量 (m ³ /s)	地 区 内 湛 水 深 (m)	名 称	計画洪水量 (m ³ /s)	計画洪水位 (m)	
		たん水防除		計						
牧川第一排水樋門	2.12	82.9		82.9	5.23	0.61	二級河川領内川	55.0	2.36	
牧川第二排水樋門	1.81	72.1		72.1	4.22	0.80	〃	55.0	2.33	
八開排水樋門	1.50	68.5		68.5	4.79	0.48	〃	55.0	2.29	
開治排水樋門	2.43	84.5		84.5	6.29	0.93	〃	55.0	2.25	
計	7.86	308.0		308.0	20.53					

(2) 排水機 (改築)

(第11表-3)

項 目 名 称	流域面積 (km ²)	受 益 面 積 (ha)			計 画 排 水 量		排 水 機				備 考
		事 業 名		排 水 量 (m ³ /s)	地 区 内 湛 水 深 (m)	実 揚 程 (m)	排 水 量 (m ³ /s)	台 数 (台)	全排水量 (m ³ /s)		
		たん水防除	計								
牧川第一排水機場	2.12	82.9		82.9	5.23	0.61	1.60	1.50	1	1.50	φ 800 (E)
牧川第二排水機場	1.81	72.1		72.1	4.22	0.80	1.30	2.10	1	2.10	φ 1000 (E)
八開排水機場	1.50	68.5		68.5	4.79	0.48	2.10	(1.40) 2.15	1	(1.40) 2.15	(700) φ 1000 (E)
〃	〃	〃		〃	〃	〃	2.10	(1.40) 0.65	1	(1.40) 0.65	(700) φ 600 (M)
開治排水機場	2.43	84.5		84.5	6.29	0.93	2.10	2.00	2	4.00	(900) φ 1000 (M) × 2
計		308.0		308.0	20.53				6		

※ 計画排水量は既設を含む地区全体の排水量を示す。

(3) 排水路 (改修)

(第11表-4)

項 目 名 称	流域面積 (km ²)	受 益 面 積 (ha)		計画排水量 (m ³ /s)	延 長 (km)	構 造	排 水 本 川			備 考
		事 業 名					名 称	計画排水量 (m ³ /s)	計画洪水位 (m)	
		たん水防除	計							
開治(下丸島)排水路	1.31	15.9	15.9	3.40	(0.60) 0.65	コンクリート3面張	二級河川領内川	55	2.25	
計	1.31	15.9	15.9	3.40	(0.60) 0.65					

(4) その他 該当なし

6 湛水検討

湛水解析の結果は、次表のとおりである。

区 分		基準田面標高 (m)	許容湛水深 (m)	許容湛水深以上 湛水時間 (hr)	最大湛水深 (m)	最大湛水面積 (ha)	備 考
現 況	牧川第一工区	0.90	0.30	33	0.63	82.9	
	牧川第二工区	0.90	0.30	30	0.83	72.1	
	八開工区	0.00	0.30	26	0.53	68.5	
	開治工区	0.00	0.30	45	1.05	84.5	
計 画	牧川第一工区	0.90	0.30	24	0.61	81.0	
	牧川第二工区	0.90	0.30	24	0.80	69.7	
	八開工区	0.00	0.30	18	0.48	59.5	
	開治工区	0.00	0.30	24	0.93	59.4	

第5節 道路計画

1 道路及び索道

(1) 道路 該当なし

(2) 索道 該当なし

2 路線配置図 該当なし

第6節 農用地造成計画

1 農用地造成計画

(1) 農用地造成計画 該当なし

(2) 末端道水路配置図 該当なし

2 土壤改良 該当なし

第7節 洪水調整計画

1 計画基準雨量 該当なし

2 計画洪水量及び調整量 該当なし

3 貯水池 該当なし

4	洪水調整検討	
	(1) 河川改修計画との関係	該当なし
	(2) 洪水調整が下流に及ぼす影響	該当なし
	(3) 計画基準雨量以外の降雨についての検討	該当なし
5	管理計画	
	(1) 管理機構	該当なし
	(2) ダム管理操作上の各種基準	該当なし
	(3) 洪水調整要領	該当なし
第8節	干拓計画	該当なし
第9節	農用地整備計画	
1	区画整理	
	(1) 区画の形状	該当なし
	(2) 表土扱い	該当なし
	(3) 末端道水路配置図	該当なし
2	暗渠排水	
	(1) 暗渠排水	該当なし
	(2) 心土破碎	該当なし
3	客土	該当なし
4	農地保全	
	(1) 防災林	該当なし
	(2) 排水工	該当なし
	(3) 浸食（崩壊）防止工	該当なし

第10節 老朽ため池改修計画

- 1 洪水吐改修計画
 - (1) 計画基準雨量 該当なし
 - (2) 計画洪水量 該当なし
- 2 堤体補強計画 該当なし
- 3 取水施設改修計画 該当なし

第 5 章 主要工事計画

第 1 節 用水施設

- 1 貯水池 該当なし
- 2 頭首工 該当なし
- 3 揚水機 該当なし
- 4 用水路 該当なし
- 5 その他かんがい施設 該当なし

第 2 節 排水施設

1 排水水門

(第18表－ 1)

項 目 名 称	位 置	形 式	構 造	内水位 (m)	外 水 位 (m)	排 水 量 (m ³ /s)	備 考
牧川第一排水樋門	流域低位部排水機 場隣接	鉄筋コンクリート造	(1.9) (1.9) B1.75m×H1.75m	1.20	2.23	5.23	
牧川第二排水樋門	〃	〃	(3.0) B2.0m×H1.5m	1.20	2.23	4.22	
八開排水樋門	〃	〃	(2.2) (1.7) B2.25m×H2.0m	0.30	2.17	4.79	
開治排水樋門	〃	〃	(2.1) (2.1) B2.0m×H2.0m	0.30	2.14	6.29	
計							

2 排水機

(第18表－2)

項目 名称	位置	排水量 (m³/s)	揚程 (m)		排水機			原動機			備考
			全揚程	実揚程	型式	口径 (mm)	台数 (台)	型式	動力	台数 (台)	
牧川第一排水機場	稲沢市	1.50	2.60	1.60	(軸) 横軸斜流	φ800	1	エンジン	(55) 72kw	1	
牧川第二排水機場	〃	2.10	2.30	1.30	横軸軸流	φ1000	1	〃	(70) 65kw	1	
八開排水機場	愛西市	(1.40) 2.15	3.10	2.10	横軸斜流	(700) φ1000	1	〃	(65) 95kw	1	
		(1.40) 0.65	3.10	2.10	(横軸斜流) 水中P	(700) φ600	1	モーター	(60) 30kw	1	
開治排水機場	〃	4.00	3.10	2.10	横軸斜流	(900) φ1000	2	〃	(85) 74kw	2	
計		10.40					6			6	

3 排水路

(第18表－3)

項 目 区分	受 益 面 積 (ha)		排 水 量 (m³/s)	延 長 (km)		構 造	勾 配	主要構造物	備 考	
	事 業 名			開きよ	トンネル その他					計
	たん水防除	計								
開治(下丸島) 排水路	15.9	15.9	3.40	(0.60) 0.65	(0.60) 0.65	コンクリート3面張	1/800			
計	15.9	15.9	3.40	(0.60) 0.65	(0.60) 0.65					

4 その他排水施設

該当なし

第3節 道路及び索道

1 道路

(1) 道路の総括表

該当なし

(2) 道路主要構造物

該当なし

2 索道

該当なし

第4節 農用地造成

1 農用地造成

- | | |
|------------|------|
| (1) 抜根 | 該当なし |
| (2) 除礫 | 該当なし |
| (3) 開墾作業 | 該当なし |
| (4) 地目変換 | 該当なし |
| (5) 末端用水路等 | 該当なし |
| (6) 末端排水路等 | 該当なし |
| 2 土壤改良 | 該当なし |

第5節 洪水調整施設

1 貯水池

該当なし

2 頭首工及び導水路

- | | |
|---------|------|
| (1) 頭首工 | 該当なし |
| (2) 導水路 | 該当なし |

第6節 干拓施設

1 堤防

該当なし

2 潮止め

該当なし

3 付属施設

該当なし

4 埋立

該当なし

第7節 農用地整備施設

1 区画整理

- (1) 区画整理 該当なし
- (2) 末端用水路等 該当なし
- (3) 末端排水路等 該当なし

2 暗渠排水

- (1) 暗渠排水 該当なし
- (2) 心土破碎 該当なし

3 客土 該当なし

4 除礫 該当なし

5 農地保全

- (1) 防風林 該当なし
- (2) 排水路 該当なし
- (3) 浸食防止工 該当なし

第8節 老朽ため池改修施設

1 貯水池 該当なし

2 堤体補強施設

- (1) のり面保護施設 該当なし
- (2) 漏水防止工 該当なし

第6章 附帯工事計画 該当なし

第 7 章 工事の着手及び完了の予定時期

1 工 期

着 手 平成 26年度

完了予定 (平成 36)
令和 12年度 (予定)

2 工事の年度割合予定

工種	年 度	26	27	28	29	30	(31)	(32)	(33)	(34)	(35)	(36)	7	8	9	10	11	12			備 考
農業用排水施設整備 (排水)							1	2	3	4	5	6									

第 8 章 環境との調和への配慮

1 配慮の対象

稲沢市、愛西市は樹木等の自然資源が少なく、今後も既存の自然資源を適正に維持する必要がある。また、農地転用や河川改修等により、のどかな田園風景や水辺が失われつつあり、景観保全に努める必要がある。
自然と人間の共生を図るため、関係法令等を適切に運用するとともに、緑化や健全な生態系を維持し、貴重な自然環境を保全する。

2 配慮の考え方

本地域は、田園環境整備マスタープランにおいて、環境配慮区域となっており、水路等に生息する生物を保全することが課題となっている。
本工事においては、地区周辺の生物の生息環境の障害にならないように、施工期間中は濁水防止対策を行うとともに、低騒音・低振動・排出ガス対策型の建設機械を使用することにより、影響を極力軽減する。また、各ブロック排水路には、フナ等の魚類も生息しているため、仮締切時には一時的に捕獲・移動するなどして、影響を軽減する。

第 9 章 換地計画の概要

第 1 節 換地計画を作成する上での基本的な考え方 該当なし

第 2 節 換地区の設定

- 1 換地区の名称、所在、面積 該当なし
- 2 換地区を設定する理由 該当なし

第3節 換地計画樹立の基本方針

- | | | |
|---|-------------|------|
| 1 | 従前の土地の地積の基準 | 該当なし |
| 2 | 用途別予定地積 | 該当なし |
| 3 | 農用地集団化の方針 | 該当なし |
| 4 | 非農用地の換地方法 | 該当なし |

第4節 土地の評価及び清算の方法

- | | | |
|---|-------|------|
| 1 | 評価の方法 | 該当なし |
| 2 | 清算の方法 | 該当なし |

第5節 換地計画樹立の年度計画 該当なし

第6節 換地処分の特則に関する特則 該当なし

第10章 事業費の総額及び内訳

(第26表)

区分		事業名	た ん 水 防 除 (千円)	備 考
事業費			(3,190,000) 5,403,700	
事務的経費			(226,490) 345,800	
計			(3,416,490) 5,749,500	
関 連 事 業 (参考)				
	計		—	

(平成25)

(令和5年度単価；但し、物価変動により将来変動することがある。)

第 11 章 効 用

(第27表)

事業名	区 分 効果項目	年 総 効 果（ 便 益 ） 額 (千円)	年 増 加 農 業 所 得 額 (千円)	備 考
たん水防除	作物生産効果	(251,551) 289,869	(264,846) 324,727	
	災害防止効果 (農業関係資産)	(139,444) 139,444	(139,444) 6,407	
	災害防止効果 (一般資産)	(382,228) 640,629	-	
	災害防止効果 (公共資産)	-	-	
	維持管理費節減効果	(△5,078) △ 7,923	(△5,078) △ 9	
	国産農産物安定供給効果	(-) 23,456	-	
	計	(768,145) 1,085,475	(399,212) 331,125	(平成25) 令和5年度単価

(参考)

① 当 該 事 業 に よ る 費 用 :	(2,532,087) 5,919,867 千円
② その他費用（関連事業費、再整備費等） :	(2,667,915) 4,905,246 千円
③ 総 費 用（ 現 在 価 値 化 ）（ ① ＋ ② ） :	(5,200,002) 10,825,113 千円
④ 年 償 還 額 :	- 千円
⑤ 年 総 効 果（ 便 益 ） 額 :	(768,145) 1,085,475 千円
⑥ 現 況 年 総 農 業 所 得 額 :	(862,915) 467,540 千円
⑦ 年 増 加 農 業 所 得 額 :	(399,212) 331,125 千円
⑧ 総 便 益 額（ 現 在 価 値 化 ） :	(15,564,681) 35,758,678 千円

(51)
評 価 期 間 : 57年
割 引 率 : 0.04

$$\begin{aligned}
 \text{総費用総便益比} &= \text{⑧} \div \text{③} = \frac{(2.99)}{3.30} \geq 1.0 \\
 \text{総所得償還率} &= \text{④} \div \text{⑥} = - \\
 \text{増加所得償還率} &= \text{④} \div \text{⑦} = -
 \end{aligned}$$

第 12 章 関連する事業 該当なし

第 13 章 現況・計画平面図面

- | | | |
|---|----------------|------|
| 1 | 現況平面図 | 次頁以降 |
| 2 | 計画平面図及び土地利用計画図 | 〃 |
| 3 | 主要構造図 | 〃 |